

# 181

こんにちは。塾長の大井です。

昨年度はずっと大長編を書いていたので、心機一転、しばらくはまた小さなテーマについて、気軽に(でも読み応えのあるものを)記していきたいと思います。

昨年正会員のお母さんから、

「授業ノートをくわしく拝見しました。こんなレベルの高いことをやっていて、しかもうちの子がそれにしっかりついていっていることが分かって感動しました。いつもすばらしい授業をありがとうございます。」

と有難いメールを頂きました。

体験授業を見学されるお母様方からも、「とてもレベルの高い授業ですね！見ていて面白かったです。」という感想を頂くことがよくあります。

それこそが私たちの狙いとしている授業のあり方です。それはただ

難しい授業とは、全く質の違うものなのです。

「難しい授業」は、ただ難解で入り組んでいる難度の高いものを扱えば、ある種誰にでも可能なのかもしれません。ただそれは講師の自己満足にはなっても、理解にも定着にも至らない「授業難民」を生み出すことになりかねません。

一方、「レベルの高い授業」は本当に講師の実力や教務力がないと成り立たないものです。

両者の最も大きな差異は、そこに生徒を巻き込んでいるかどうか、子どもたちの頭を動かしているか、その一点にあります。

それには、彼らの答案から誤答へのプロセスを把握し、導きたい着地点までの過程の見せ方を何通りも算出し、その中のベストを瞬時に選び取る(あるいは改変する)即応性が求められます。

ですから、同じ教材を扱っていても私たちの授業はいつも新しく、一回限りです。この一期一会のやり取り、これは本当に楽しいもので、TOPの生徒たちはそのラリーをととても楽しんでいます。

考える、発言する、また練り上げる。

そんな子どもたちから始まる授業、理解させるだけでなく、その上  
を超えていく授業、そんな学ぶことの醍醐味をこれからも提供し続  
けたいと思っています。

2018年3月19日

大井雄之